

ドア錠  
1  
丁番  
2  
スライド  
丁番  
3  
開き戸  
金具  
4  
引戸錠  
5  
引戸  
金具  
6  
上吊式  
引戸金具  
7  
移動  
間仕切  
金具  
8  
折戸  
金具  
9  
室内用  
アルミ建具  
10  
取手・  
引手  
11  
スライド  
ワイヤー  
バスケット  
12  
収納・  
吊金具  
13  
その他の  
家具金物  
14  
物干金具・  
諸金具  
15  
真鍮  
アンティーク  
16  
設計  
施工  
ガイド  
会社案内

# 取手・引手に関するQ&A

**Q1** 取手には裏ねじタイプ、面付タイプ、両面タイプなどがありますが、それぞれの特徴について教えてください。

**A1** 裏ねじや面付とは、取手の取付方法についての呼称です。裏ねじタイプは、図-1のように取手の付く側と反対の裏側から小ねじで取付ける方法です。取手にはあらかじめ雌ねじが切られています。また、扉にはねじを通す穴を前もってあけておく必要があります。利点としては、表からねじが見えないこと、面付タイプに比べて耐引っ張り力に勝ることなどが挙げられます。家具の取手は殆ど裏ねじタイプを採用しています。なお、このタイプは収納扉専用となります。

面付タイプは、図-2のように取手の付く側と同じ側から取手を木ねじなどで取付ける方法です。取手にはねじ用の穴が設けられています。前もって扉に穴加工をしておく必要がないので誰でも簡単に取付けられるのが利点です（本カタログでは、このタイプにDIYマークを付してあります）。反面、裏ねじに比べて耐引っ張り力が劣ります。またねじが表から見えることなども短所といえるかもしれません。建具分野の扉に多く用いられるタイプです。

両面タイプは、図-3のように両面に付く取手を同一ねじで締結する方法です。間仕切扉専用で、多くは大型の取手に使用します。利点は、ねじが見えないように工夫されていること、両面の取手とも同じ高さ位置に取付けられること、面付タイプに比べて耐引っ張り力に勝ることなどが挙げられます。

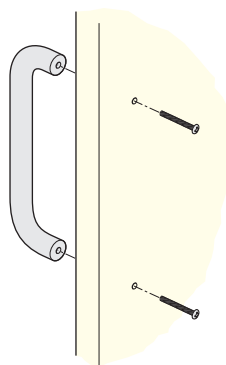


図-1 裏ねじタイプ

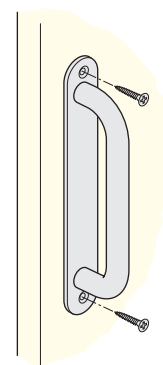


図-2 面付タイプ

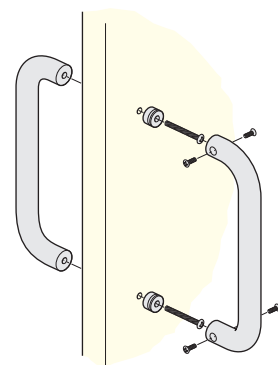


図-3 両面タイプ

**Q2** 裏ねじの場合、ねじの掛かりは雌ねじに対して最低何mmくらい必要でしょうか。

**A2** 一般的に言って、最低限、ねじ径と同寸法以上の掛かりが必要です。すなわち、M4ねじの場合だと有効4mmの掛かり（M4ねじの場合、ねじピッチが0.7mmですから約5～6山分の掛かり）が必要ということになります。なお、取手などに設けられている雌ねじは、ねじ先を誘導するなどの目的から最小1mmの不完全ねじ部がありますので、その分を見込んだ寸法が必要となります。

